第２回半田市市民チャレンジ協働プラン推進委員会

開催日時	令和４年８月１２日
開催場所	市民交流センター　ホール
次　第	１．議題 （１）協働推進・評価方法（案）について ２．その他 （１）今後のスケジュールについて
出 席 者	千頭　聡 戸田　愛 榊原　宏 伊藤　里香 池田　美恵子 曽根　香奈子 小野田　靖
欠 席 者	藤牧　実
事務局	市民協働課長（藤井寿芳）、市民協働課主幹（中村省吾）、市民協働課副主幹（鳥居ひとみ）、市民協働課（村瀬有佳子）
議事録	
１．議題	（１）協働推進・評価方法（案）について
事務局	【資料に基づき説明】
委員	数値で出しにくいため評価が難しいと思います。協働の良い取組を取り上げるなら評価しやすいが、悪い事例を良くないと言えるほど知識を持って指摘できるか心配です。また、行政側のみの評価になるため、あくまで行政目線になってしまうのではないでしょうか。
委員長	当事者(行政)が評価、協働の相手方が評価、そのサービスを受けた側の評価の三者の視点が必要なのではないかと思っています。
委員	協働の相手方の評価は大事です。
委員	協働の相手方の評価無しに事業を進めて行くのは違うかなと思います。一協働の相手方として、事業実施後に報告書を提出しているが、行政側も「(協働の相手方へ)今後期待すること」など、振り返りが必要なのではないでしょうか。協働の意識が出てくる一つの方法と思います。アンケートなど目に見えた評価があるといいです。
委員長	資料にある 164 の事業は、担当課から出された事業ということですか。

事務局	各課において、協働事業であると意識され、判断した事業を掲げています。
委員	5 事業の選定をするとのことですが、どのように行うのでしょうか。
事務局	例えば、分類の 1 事業ずつ選定、あるいは、良い事例を選定するなど様々な方法があります。担当課から協働が上手くできている・できていないという評価をしてもらい、その中から選定する方法も一つかと思います。
委員	協働でできている時点で、みな良い事例に思います。どのラインで効果があるのか、どこが成果に当たるのか、数字で表せるものがあると、担当課自身の協働の意識が変わってくると思います。
委員	資料 1 の評価 ABCDE の評価基準は、どのようになっているのでしょうか。
事務局	全庁的に、毎年、予算に基づく主要事業評価を行っており、その評価基準です。主要事業評価は、各課で主要な事業を取り上げ PDCA サイクルに基づく自己評価をしていくものです。その評価と紐づく協働事業は、64 事業あり、資料 1 のような集計になっています。
委員	事業ごとにアンケートを実施していると思うのですが、まずはアンケート結果から見えてくる課題を解決することが最優先と思います。5 事業を選定し、その事業の現場を見るなどしてよく知らないと評価できないと思います。
委員	３点気になる点があります。1 点目は、5 事業を選定するのが難しいと思います。資料の 164 事業のうち、各課で事業の規模が異なり、事業全体として大きく評価するのか、一つ一つのイベントを評価していくのか、課によって目線が異なり、比較するのが非常に難しい。また、５つの選定方法が、良い事例でなく、課題が多いものばかり選ぶのもいかがかと思います。 ２点目は、5 事業選定し評価した場合、翌年度はまた新たな 5 事業を選ぶことになるが、前年度の 5 事業はどのようにフォローするかが課題になると思います。 ３点目は、政策としての事業そのものの評価でよいのか、政策としては効果が無かったが、協働の取組としては一定の評価ができるものの場合はどうするかなど、評価にあたり基準を決めなければならないと思います。
事務局	164 事業の選出を各課に任せていることで、大きな規模の事業から小さなものまで差が出てしまっているのは事実で、整理が必要であると思います。また、5 事業選定し、その後フォローをすることもこれから考えて続けていかなければならないと思っています。ご意見のとおり、協働相手の評価の視点が抜けているので、上手に整理して繋げていきたいと思いました。
委員長	どのレベルの事業を一つとみるのか、成果をみるのか、協働に対する評価の基準は非常に難しいです。評価をしていく中で、評価の仕方が見えてくる可能性もあるため、基準をしっかり決めすぎるのは、より難しくさせてしまうかもしれません。評価した結果を担当課や協働相手が振り返り、フォローをすることが大事と思います。その時に、行政のみならず協働相手の評価もして

	もらう仕組みを盛り込んでおかなければなりませんね。
委員	「連携」という言葉を見たときに、立場が違うといろんな捉え方・感じ方があると感じました。言葉にして評価されると身に染みて振り返られます。分かりやすい言葉で評価されることはいいことに思います。
委員長	行政からと協働相手からでは捉え方が異なるので、両方の視点を評価しなければならないと思います。量的に評価することは非常に難しいです。例えば、５事業のうち、１、２事業は協働相手にも来ていただくことができるといいですね。
委員	ちょうど昨日、実施していた活動が「協働」できているなと感じられたものでした。この協働の取組を知ってもらいたいという気持ちになりました。他にもそのような事業はあると思うので、PR したい事業を手挙げ方式にするなど好事例を取り上げるのはどうでしょうか。良い事例を認定するような評価はいかがでしょうか。課題のある事業を取り上げても、私たちが詳細まで知らないなか評価するのは厳しいと思います。行政や協働相手の目線を考えると、評価は複雑になると思います。
委員長	この評価は、事業仕分けではないので良い事例を共有することは大事かなと思います。
委員	視点が変わるという話の中で、何をもって協働というのかが分からなくなってきました。委託やボランティア様々な方法で、線引きが分からないです。
委員	委託などは協働ではないと思えてしまいます。事業目的が達成できるようにお互いにすり合わせてきているのかが大事になってくるのかなと思います。主要事業評価の ABCDE の指標は、自己評価と思いますが「おおむね達成されている」の「おおむね」は個人によって差が出てしまうと思いますが。
事務局	主要事業の評価は、成果指標から算出しています。例えばイベントの事業の場合、来場者数や満足度などの成果指標を定めていて、目標値を達成するか否かで判断していきます。あくまで、主要事業評価という行政側からの視点の評価です。
事務局	各課へ調査するにあたり、総合計画の施策や主要事業に紐づいているかを意識してもらうことも狙って依頼していました。主要事業評価は、政策としての評価をしているものですので、主要事業評価が協働事業としての評価と直結しているわけではないのでご承知おきください。主要事業評価とは別に、総合計画でももっと大きな単位で評価を行っています。先ほど、良い事例の認定というお話があり、面白いなと思いました。
委員	Ａ３資料にある「実施済み」や「実施中」とは、令和３年度についてのことを示しているのでしょうか。
事務局	令和３年度に実施しているもので、実施中とは、過去から継続しているという意味です。
委員	私が団体として関わっている事業が、164 事業の中に挙がっていませんでした。

	庁内組織の変更はありましたが、協働事業として捉えてもらっていなかったのか、協働相手として言えることもあると思うと残念な気持ちです。
事務局	協働事業の視点で各担当課から事業の抽出をしていただきましたが、認識不足から抽出漏れという事業が他にもあるかもしれません。
事務局	調査方法は、2 年度の事業を取りまとめたものから加除があるかという方法をとっているため、あってはいけない事ですが、各課の担当者の意識レベルにより漏れることはありえます。この点は、庁内での課題と捉えています。
委員	行政側がボランティア等を依頼しておきながら、協働の意識がなかったり、事業を任せきりにしたりすることが当たり前と思っているように見えてしまいます。そこは、改善を図っていただきたいところです。
事務局	次の庁内連携の話にも関係してくる内容です。伊藤委員だけでなく、他の団体からも同じような声はでてきそうだと思って話を伺っていました。行政として真摯に反省すべき点だと思います。
委員長	従来から行っている事業か新規事業かにかかわらず、行政側に協働事業であることを再認識してもらうこともこのアンケートの効果の一つだと思います。 伊藤委員のように指摘いただくこともこの場では必要ですので、他の委員のみなさまもよろしくお願いします。
委員	委託や補助金を受けているものが市民協働と言われることに違和感があります。
委員長	県がＮＰＯに事業委託するなども協働事業という認識というところからきていますので、行政側ではそのような捉え方をしています。
委員	例えば指定管理を受託している観光協会はこれが市民協働ということであれば、行政にももっと関心をもっていただきたいし、もっと評価されてもいいのではとの感覚です。
事務局	協働ではありますが、「指定管理」という中で別に評価をしていますので、今回評価する事業では選定は行わない方向です。
委員長	集約しにくい議論ではありますが、今後のスケジュールを確認する中で、11 月に委員と行政との交流会となっています。行政側は次年度予算がほぼ固まる時期ですが遅くはないですか。次年度に評価する協働事業を選定するということもテーマにするのであれば、交流会も少し前倒しする方が良いかもしれませんが。時期の選定に考えはありますか。
事務局	委員会の２、3 回目は行政側の管理職・監督職に相当する職員に参加いただき、予算が必要とか、長期的な視点で話ができたらと考えています。交流会は予算措置までは踏み込まない話し合いをイメージしていましたので、11 月頃を考えています。
委員長	悩ましいのは、11 月に交流会をもって職員と認識の共有化を行い、4 月の異動でその認識を改めて共有化しなければいけなくなることです。4 月に交流会の実施はできませんか。

事務局	検討させてください。
委員長	次回の委員会を 11 月で予定していますが、委員の皆さんから事務局に対し、検討等をするうえでの考え方など認識を共有する上での意見、宿題があれば発言をお願いします。 特に、事業の選び方については共有したいと思います。 ・事務局側の分野分類１～６から１つずつ。 ・手挙げ式（行政側から、ＮＰＯ側から） ・行政側がやりたかったけれど、出来なかった事業を取り上げてアドバイスをするような形で選定など、いろいろな選定方式が考えられます。
委員	成果にひきずられがちだが、この委員会では協働の中身に特化して考えていくべきです。 まずは、形がある程度できている事業を選定し、中身を評価し、協働の良さを広く伝えるという方が良いです。
委員長	グッドプラクティスの積み上げは、市、ＮＰＯ共に大切です。
２．その他　（１）今後のスケジュールについて	
事務局	【資料に基づき説明】資料 P.4
（２）その他	
委員長	最後に、事務局には協働事業のリスト内にチャレンジ部門の助成金で取り上げた事業の記載がありませんので、確認をお願いします。 この委員会で行おうとすることはすぐに成果を求められるものではなく、中期的視点で進めていくことで評価方法や議論の方向性が安定していくと思います。
事務局	委員長のご発言のとおり、中期的視点で進めていくことで評価方法や議論の方向性が安定していくと思います。委員のみなさまにご理解とご協力をお願いし、散会といたします。